

中野市青少年問題協議会 会議録

審議会等の名称	中野市青少年問題協議会
担当課（連絡先）	子育て課 青少年未来係 電話 22-2111 内線 357
開催日時	平成 19 年 8 月 22 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
開催場所	中野市役所 31 号会議室
出席者	青木 一会長、丸山富雄副会長、清水照子委員、小林貫男委員、本山綱規委員、高木幹男委員、丸山邦夫委員、海野忠一委員（代理：土屋一都氏）、礫石淺治委員（代理：和田行雄氏）、高木久美子委員、小嶋隆徳委員、両澤文夫委員、西原 仁委員、山田浩美委員、池田久江委員、保科いう子委員、高橋正人委員、矢澤玉枝委員、佐藤禮子委員
出席者（事務局）	高野澄江部長、青木隆雄課長、臼井今朝徳課長、杉本光正係長、小野今朝彦主任主事
会議資料	資料 1（平成 19 年度青少年健全育成事業の概要） 資料 2（青少年の非行の状況）
決定事項	副会長は、丸山富雄委員に決定する。
会議内容	<p>協議事項</p> <p>(1) 副会長の互選について 条例第 3 条第 6 項により、丸山富雄委員が互選される。</p> <p>(2) 平成 19 年度青少年健全育成事業の概要について 説明：杉本係長 内容：資料 1 による</p> <p>(3) 青少年の非行の現状について 説明：礫石淺治委員代理 内容：資料 2 による</p> <p>(4) 青少年健全育成について（意見交換） 各委員からの意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケータイは、交換日記代わりに使われている。“学校裏サイト”には、ある学校の生徒や先生の誹謗中傷の内容が数多く書き込まれている。パスワードも広く知れ渡って簡単に入り込め、内容を見ることができるケースも多い。掲示されている生徒や先生は、イニシャルやニックネームで書かれているが、その生徒や先生が在籍している学校の生徒であれば、容易にどの人物であるかが特定でき、人権侵害にもなっている。投稿者、閲覧者とも、あまり罪の意識がない。 ・ 信州中野 I C 入口付近にホテルの建設計画がある。ホテル建設にかかる地元対策協議会では、建設反対を申し入れている。子どもたちの健全育成のためにも中止して欲しい。 ・ 7 月 2 日実施した一斉街頭啓発活動時に、高校校門前で朝のあいさつを呼び掛けても、高校生によって好感のもてる対応してくれる子もあれば、まったく無視していく子もおり対応が様々であった。 ・ 中学校も落ち着いてきている。地元小学校では安全パトロールの組織がある。

- ・ 子どもは年々少なくなっているが、子どもが少ないなりの育成活動が行われていて、とてもよいことだ。
- ・ 週末に社会体育団体の大会が数多くあり、盛り上がりを見せているが、子どもに休む暇がないので友だちと遊んだり家族で過ごす時間がないのではと危惧する。ただし、当人や応援している家族にとっては楽しく参加しているようなので、それはそれでよいのか・・・。
- ・ 自然に親しむ事業を開催すると、親子連れの参加が多く、体験活動などに対する関心の高さがうかがえる。
- ・ 現在、少年犯罪は減少傾向にあるが、以前の当市の少年犯罪数は、人口割合からすると多い（当市のほか県下では長野市、上田市）。罪を犯した少年が、半年から1年間少年院でよい教育を受けてくるが、戻ってきた家庭・社会環境が元のままであれば、よい社会人になるのに時間がかかる。
- ・ 地域の大人は、日常の環境づくりのよい担い手になりたい。
- ・ 地域でのあいさつ、声かけの難しさを感じる。
- ・ “地域の大人が、地域の子どもを守る”という観点で、青少年問題を取り上げた座談会を各地区で開催している。地域の実状や少年の非行問題について話し合いができる場であり、また、子育て中の親との研修会では様々な意見交換ができてたいへん有意義であった。
- ・ 小中学生のいる家庭の理解・協力を得ることが、非常に難しくなっている。（理由は、価値観の多様化、難しい家庭事情、家庭崩壊）
- ・ 不審者による小学生への声かけ事案が発生している。
- ・ 子どもの交通事故が多い。街頭補導中に声かけをお願いしたい。
- ・ ケータイを所持している小中学生が多くなってきている。保護者には持たせないように連絡しているが、実際は部活後の迎えの連絡に必要であるため、中学生の3割程は所持しているのではないか。
- ・ 学校関係では、子どもや保護者を対象にしたケータイの正しい使い方の学習会を計画している。
- ・ 子どもたちの不規則な食事（朝食を取らない、野菜を取らないなど）が目立ち、脂肪分の過剰摂取による肥満児が年々増加している。
- ・ 朝食をつくってくれない家庭、朝・昼・晩三食を食べることがめずらしい家庭もある。大人になってから食習慣を改めるのは難しい。“早寝・早起き・朝ごはん”の規則正しい生活習慣は、子どものころに身につけることが大切である。
- ・ 子どもの時は、思いきり外で遊ぶことが大切で、遊びの中で友だちとのコミュニケーションが図れる。
- ・ 20代後半から30代前半のひきこもりの多くは、小中学生時代に不登校を経験したことがある。その時期に人間関係を築いていないことが原因であると思われる。
- ・ 子どもの姿を見ない。近所の子どもがわからない。子どもと地域の大人が交流し合う場面がない。個人情報保護もあまり行き過ぎると地域が疎遠になり、地域住民同士の交流もなくなる。

- ・ 今の子どもたちは、テレビゲームなどのゲーム機と向き合って遊ぶことが遊びと思っている。遊び方を教えるのは、家庭である。
- ・ 地域ごとに行われている見守り隊は、地域によってやり方が様々。統一見解で実施した方がよい。
- ・ 学校でインターネットのアクセス規制をしていますが、家庭において野放図になっていることが往々にしてある。子どもたちの周りでは、子どもたちに有害な情報が溢れており心配である。
- ・ 子どもたちが安心して暮らせる対策がいろいろ講じられているが、それぞれの立場でできることを取り組んでいくことが大切である。
- ・ 現在、県下各市で有害図書にかかる青少年育成条例の制定に向けた動きがある。当市においても、この問題について話し合いの場を設けていこうという機運が高まったら、この青少年問題協議会で諮っていただき、地域の声を吸い上げていただきたい。

会長の意見：

- ・ 委員の皆さんのそれぞれの立場からいろいろな意見を聞く中で、子どもにとって安全な環境、犯罪にかかわらない環境を整えるには、①犯罪を発生させない、②犯罪に感染させない、③自らの身を守る能力を身につけさせる、④その元を断つ、と啓発活動や行動の目標が見えてくる。
- ・ “親が賢くなる”には、子ども主人公にしすぎないこと。著名な方の意見では、“親が身勝手になる”“親の都合を押しつけてよい”と言っている。親の仕事のこと、親の事情や家庭の事情を子どもに伝える。子どもは自分の身の置かれている現実を知ることによって外に対する抵抗力がつく。今の子どもは、粗末に扱われると敏感に反応して、落ち込んでしまったり、良からぬ方向に考えが及んでしまうケースが多すぎる。言葉を変えれば“挫折に弱すぎる”。親は子どもに、“挫折しないように”“落ちこぼれないように”“道を外れないように”と、常に羅針盤や方向修正の役目を果たしすぎている。
- ・ また、別の方の意見は、親が子どもに“いい子”を求めすぎていて、子は親の期待に応えるように“いい子ぶったような態度”を取らざるを得ない。悪い成績をとってしまう、悪いこともしてしまう本来の自分の姿を報告できるような、親と子の真実の交流ができるような関係であっていいのではないか。子どもが、親、先生、地域と正直に接することができない環境をつくったのは我々である。
- ・ 紀元前の時代でも、“いまどきの若い者は・・・”といった言葉が出てくる。いつの時代も青少年問題は今すぐに解決できるものではないが、常に子どもにとってよい環境を追い求めることは大切なことであり、それぞれの立場で活躍されている委員の皆さんが、こういった場で意見を交わすことは大事なことである。
- ・ 委員の皆さんの任期はもう1年ある。1年間体験した事例、エピソードなどを、来年のこの場でご報告いただければと思う。

その他

説明：高野部長

内容：子どもサポート協議会（担当部署：子ども相談室）の概要説明